



まちなか先生と創る養老溪谷プロジェクト

～ 大学生が考える地域観光とその人材 ～



学生がまちなか先生(協働パートナー)と現地で打ち合わせをする様子

■協働パートナーの種別

NPO	地縁	社協	学校・大学	企業	行政	その他
-----	----	----	-------	----	----	-----

■事業運営団体

城西国際大学 観光学部

■協働パートナー

まちなか先生(OIKAZE 湖畔のマルシェ 他)

市原市地方創生部観光・国際交流課

小湊鐵道株式会社

株式会社 千葉銀行、及び、ちばぎん商店 株式会社 ほか

計 7 団体

■事業費

73 万円

■資金調達手段

その他 (クラウドファンディング)

本事業は、市原市と城西国際大学の連携協定のもと、大学生が養老溪谷地区を舞台に「まちなか先生(地域で活躍する人材・企業など)」とともに、「学生たちは地域のために何ができるのか？」を考え、地域活性化や社会課題の解決を目的とした観光イベントを実施するプロジェクトです。2023 年度は養老溪谷地区での「関係人口創出」や、本学学生が養老溪谷地区の将来に寄与する地域運営の担い手になれるよう、「地域人材との関係性を築く」ことを目的としたハイキングイベントでした。2024 年度は「稼ぐ地域」を目標とし引き続き活動しています。

●協働までの経緯

城西国際大学観光学部では、本学が立地している東金市の商工観光課との連携事業の一環として、東金市の使われていない蔵を活用した映画祭を観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」の採択事業として実施した。「まちなか先生」と称する地域人材に指導者となってもらい、地域の課題や仕事を教えてもらいながら、地域を活性化する取り組みであった。

2023 年度、上記の取り組みについて、メディアを介して把握した市原市地方創生部からも要望があり、こうした地域活性化モデルを横展開すべく、市原市と観光に関わる連携協定を締結した。そして、人口減少が著しい市原市養老溪谷地区の課題に見合った地域活性化モデルを事業化する運びとなった。

●主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① 連携協定：2023 年 8 月 25 日
- ② 事前調査期間：2023 年 1 月 15 日～2023 年 3 月 20 日
- ③ 授業：2023 年 9 月 21 日～(まちなか先生との打ち合わせ、実地調査、企画検討、クラウドファンディングの実施、各種連携企業との打ち合わせ など)
- ④ 中間報告会 2023 年 10 月 23 日、最終報告会 2023 年 12 月 19 日
- ⑤ イベント実施 2024 年 1 月 20 日

Q 主な協働パートナーとの役割分担

●城西国際大学

イベントの企画制作・当日運営、クラウドファンディングの企画・運営、五井駅から養老溪谷駅までの貸切列車内の商品販売事業

●まちなか先生、市原市 地方創生部 観光・国際交流課

学生の企画に関する適切性の判断、学生が地域内で活動をする際の実働サポート、学生の企画を運営するに際し地域内でのサポート体制づくり

●小湊鐵道株式会社

貸切列車の運行事業、列車内での学生活動(商品販売事業サポート)の支援

●株式会社 千葉銀行、及び、ちばぎん商店 株式会社

クラウドファンディング事業の学生サポート事業、事業協賛企業と学生のマッチング事業

Q 協働事業によって生まれた成果

●城西国際大学

- ・学生が養老溪谷地区の関係人口として関わられた
- ・クラウドファンディングを通して養老溪谷の現状を地域外の人に伝えられたこと
- ・クラウドファンディングでの成功を介して、イベントに関わった学生が「自分たちの力でもなんとかできる」ということを理解したこと

●まちなか先生、市原市 地方創生部 観光・国際交流課

地域の活性化と観光振興を担う若手人材の共創

●小湊鐵道株式会社

企業に関わる地域の持続可能性の向上

●株式会社 千葉銀行、及び、ちばぎん商店 株式会社

地域経済の活性化への貢献



♡ コラボのコツ!!

★コツ1

若手地域人材に「まちなか先生」になってもらい、学生と地域のハブになってもらう

★コツ2

「まちなか先生」に学生が関係人口として養老溪谷地区に興味を持つための機会を作ってもらう

★コツ3

「まちなか先生」とオンラインでの打ち合わせを実施し、事業ロードマップを一緒に考えてもらう

Q 今後力を入れていきたいこと

「稼ぐ地域」を目指す市原市や企業と協働していきたいと考える。

とくに、市原市の地域交通の要である小湊鉄道の利用者数を向上させるために、ナイトタイムエコノミーを推進するイベント企画についてまちなか先生と検討したい。

さらには、こうした単年度ごとで実施する取り組みを継続的に重ねていくことで、既存の観光産業（旅行業、宿泊業、交通産業 など）の枠を超えた「新しい観光」に関わる「組織のあり方」などを検討していければと考える。



別添様式 事例紹介用調書

協働事例プロフィール

【活動開始年】2023年8月 【活動のPR手法】C-VALUE (<https://www.c-value.jp/projects/jiu001>)

X市原市養老溪谷PR 【ア・サ・ヒ】 (https://x.com/Lets_kominato_)

【この事業で活用した補助金】 なし

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 千葉日報（2024年1月）、日本農業新聞（2024年2月）など

【問い合わせ先】 担当者：金子(城西国際大学観光学部助教) 電話番号：0475-55-8895

メールアドレス：kanecom@jiu.ac.jp